

砂浜海岸のアメニティ評価手法に関する研究

九州大学工学部 学生員 ○片岡 治
九州大学工学部 正会員 武若 聡 入江 功
九州共立大学工学部 正会員 小島 治幸

1. はじめに

近年、砂浜海岸の利用、開発、保全、保護などについての、関心が高まっている。本研究ではアンケート調査により砂浜海岸のアメニティを評価することを検討する。ここでは砂浜海岸のアメニティを「砂浜における快適環境」と捉え、これについて人々が抱くイメージを明らかにすることを目指す。すなわち、アンケート調査の結果を解析し砂浜海岸のアメニティがどのような項目により評価されているかを特定し、またどのような砂浜海岸がアメニティの観点から高い評価を受けているかを検討する。

砂浜海岸のアメニティを普遍的に評価するアンケート調査法は現在のところ確立されていない。従って本研究で用いたアンケート調査は予備的なものであり、本研究の解析結果を反映させ、より洗練されたものに高めることも研究の目的に含まれる。

2. アンケート調査の概要

アンケートは、九州大学ならびに九州共立大学の海岸研究室に所属する教官と学生が回答した。アンケートの回答は、九州北部の砂浜海岸(図-1参照)の23地点を踏査した際に行った(1地点につき平均で12名が解答)。アンケートは14の質問からなり、海浜の外観、海浜へのアクセス、海に対するイメージを問う内容となっている(図-2参照)。アンケートの回答方式はマークシート方式で各質問を5段階で評価する。回答の評価は、全般に1が肯定的なイメージに、5が否定的なイメージとなる設定とした。

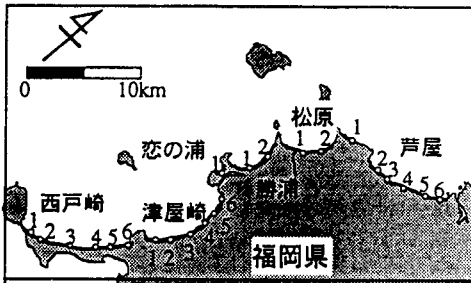


図 1: 福岡北部地図

問	アンケート内容
1	海浜に大波がきても大丈夫?
2	砂の色は明るいか?
3	背後地は開発利用されているか?
4	子どもが自由に遊べるか?
5	老人でも泳げるか?
6	浜に人が来るか?
7	磯・岩場があるか?
8	この海岸へのアクセスは?
9	親水性護岸あるいは遊歩道は?
10	「白砂青松」がふさわしい海岸か?
11	汀線形状に美しさがあるか?
12	水平線がよく見えるか?
13	波の音が楽しめるほど「静か」か?
14	恋人と行ける海辺か?

図 2: アンケート調査内容

3. アンケート結果の解析と考察

まず、アンケートを行った地点毎に、各質問について全回答者の評価点の平均と分散を求めた。ここで、質問に対する評価点の平均が小さいということは、その項目が肯定的に評価されていることを意味し、また質問に対する評価点の分散値が小さいということは、客観的に答えることが可能であった設問と考えられる。図-3に代表的な調査地点における各問の評価点の平均値と分散値を示す。

問1の評点と踏査で調べた浜幅の間には逆相関があった。これは浜幅が狭いと大波の来襲に対する危険が高まることを示している。

次に、調査の対象となった砂浜海岸の特徴を調べるためにクラスター解析を行った。結果を5つの群に大別して説明する。各群に含まれる海岸を表-1に示す。また各群の代表的な海岸の実態、その群の特徴を表-2にまとめた。

「海岸の自然」に対する評価が高いのは群3、4、5の海岸である。これらの群を分けた主要因は「海岸へのアクセス」である。砂浜海岸の快適性にアクセスまで含めて評価するならば、群3、4の海岸が今回の調査の範囲内ではアメニティが高いことになる。尚、冒頭で述べていたアンケート調査自体の適切性についての判断は紙面の都合により省いた。

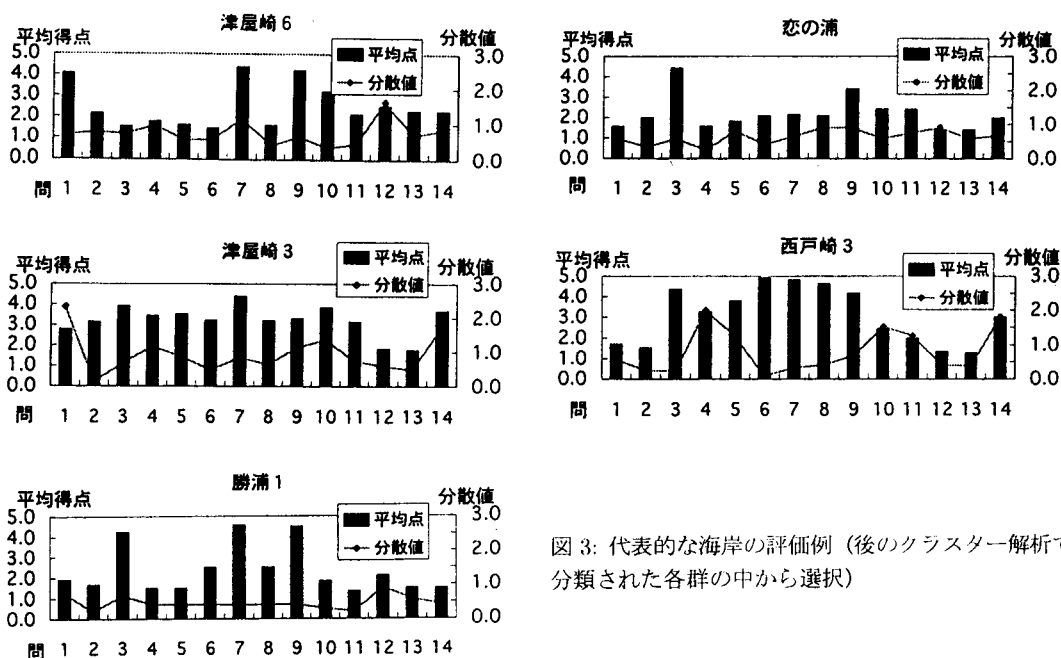


図 3: 代表的な海岸の評価例 (後のクラスター解析で分類された各群の中から選択)

表 1: クラスター分析の結果

群番号	地点名
1	津屋崎5、津屋崎6、芦屋2
2	津屋崎3、津屋崎4、芦屋3、芦屋5、
3	津屋崎1、津屋崎2、西戸崎1、芦屋6、松原1、松原2、勝浦1、勝浦2
4	西戸崎6、芦屋1、恋の浦
5	西戸崎2、西戸崎3、西戸崎4、西戸崎5、芦屋4

表 2: 各群の特徴

群	海浜とその周辺の状態	海浜の評価の特徴
1	<津屋崎6> 津屋崎港から南に伸びる海岸。夏期は海水浴客が多く、海の家が多数。付近に国道があり駐車場も設置されているためアクセスは容易。	問1の評点が高い。防災面に対する危惧が大。津屋崎5、6はアンケートを行った最初の地点であり、回答の基準が定まっていなかった可能性がある。
2	<津屋崎3> 曾根の鼻から磯崎鼻の間の弓状海岸。背後に防風保安林。浜は狭く、消波護岸の設置。ゴミが多い。国道に近接するが駐車場がない。	全般に評点が高い。否定的に捉えられている。海浜には護岸、消波構造物、航空自衛隊の基地。浜を窮屈に感じたり景観を損なう要因有り。
3	<勝浦1> 勝浦浜全体の海岸線が見渡せる。幅約35メートルの砂浜が広がり背後に松林が続く。海岸へは駐車場からしばらく徒歩が必要。	一部の項目を除き全体に評点が高い。海浜には構造物がなく、背後には豊かな防風保安林。人為的影響の少ない「白砂青松」のイメージに近い。
4	<恋の浦> 彫刻の岬と磯崎の間の弓状海岸。浜幅は約50m。背後に植生帯、道路を隔てて山。民家、道路が無く静か。清掃によりゴミが少ない。	評点は高くも低くもない。印象に残る特徴がなかったと思われる。各海浜に共通する特徴はない。イメージに残りにくい海岸。
5	<西戸崎3> 海の中道海浜公園。一般には立ち入り不可能。人気は全くない。白砂青松を意識しているようで、美しく保全する努力がみられる。	アクセスが非常に困難。全ての海浜が海の中道内とその付近にある。いずれも管理者の許可が必要であったり、相当な距離を歩いて到達する海岸。